



日本シビックコンサルタント（株）  
東北事務所 大沼正浩

## － 協会活動を通して得られたもの －

### 1. はじめに

私事ですが、約40年間建設会社に在籍し、主に東北地方でダム・トンネル・シールド等の建設工事に携わり、平成23年11月に退職しましたが縁があり現在の会社に再就職し、今は東北事務所にて技術営業の職に就いています。

また弊社東北事務所が全国上下水道コンサルタント協会東北支部に入会したのが震災2年後の平成25年3月で、他協会員各社に比べ入会6年目と協会内での活動期間・実績ともまだ少ないのですが、私が取組んできた活動内容について紹介したいと思います。

### 2. 初仕事

東北支部の各協会員は総務委員会か技術委員会の何れかに所属し、それぞれに役割を担う事になりますが、弊社は入会直後の5月の支部総会で技術委員会に属することとなり、6月の技術委員会の部会では技術見学会の企画担当となりました。

早速10月に開催予定の技術見学会の企画を他協会員1社と共に任される事になり、入会早々で何も分からず戸惑う事ばかりでしたが、新会員として早く溶け込みたいとの思いで積極的に企画することにしました。

日程調整、参加者募集の案内、視察先発注者への依頼、バスや宿泊先の手配等を経験者の助言を受けながら行い、何とかプランを作成することができました。

見学場所の選定では前職時に経験した工事現場を軸に立案し、内容については当時の人脈等を頼りに情報を得ながら調整する等して、1泊2日の技術見学会がスタートしました。

行程は1日目（2013/10/10）が順に

- ・仙台市 南蒲生浄化センター（まだ震災の爪跡が残る下水道処理施設の復旧工事）
- ・東北地方整備局 摺上川ダム管理事務所（摺上川ダムの堤内監査路、取水設備）
- ・福島地方水道用水供給企業団 すりかみ浄水場（浄水場内の処理施設、管理状況）
- ・福島市飯坂町 穴原温泉吉川屋に宿泊（会員相互の親睦を目的とした懇親会）

## 南蒲生浄化センター

津波の直撃を受けたポンプ室内部



津波の直撃を受けたポンプ室外壁



直高 10mの津波が直撃

復旧工事が順調に進む現場



最盛期には 20 業者が入る大工事

現在は全ての工事が完了し、浄化センターとして 100%機能している

## 摺上川ダム

ダム堤体全景（上流側より）  
中央が取水塔



ダム堤体全景（下流側より）  
右端が洪水吐



## ダム堤体内監査



摺上川ダムは福島市飯坂町に位置するロックフィルダムで堤長 718.6m 堤高 105.0m、堤体積 830 万m<sup>3</sup> 総貯水容量 1.53 億m<sup>3</sup> 目的は洪水調整、灌漑、発電、上水・工業用水等の多目的ダムで、すりかみ浄水場の水源となっている

## すりかみ浄水場

### すりかみ水場全景



浄水場蛇口（家庭用蛇口）からの水をペットボに詰めて販売している



500ml/100 円

## 宿泊施設

### 福島市の奥座敷 穴原温泉吉川屋（皇室御用達宿）



福島市及びその近郊には土湯温泉・高湯温泉・飯坂温泉等があり、穴原温泉も市民の憩いの湯として親しまれている。

そのなかで吉川屋は皇族が利用する格式も備えているが、日帰入浴もある庶民派の宿である。

行程 2 日目 (2013/10/11) は

- ・東北地方整備局 東北中央道栗子トンネル工事 (福島・山形側のトンネル掘削状況)
- ・福島市内「四季の里」でジンギスカンバイキングの昼食
- ・福島から仙台への帰路を利用し、紅葉の始まった土湯街道 (吾妻山 ~ 一切経) と盛りだくさんの感がありましたが、参加者 15 名の皆さんにも満足して頂けたようで、苦労はしましたが大役を終えほっとした感じがしました。

### 3. その後の活動と活動を通して感じたこと

その後も隔年開催された埼玉県の G & U 技術研究センターや函館市の元町配水場への見学会の計画にサブとして対応し、現在は協会支部が主催する実務者研修・技術講習会のお手伝いをしています。

このように技術委員会の一会員として役割を継続してきたことは、協会支部の役員および各会員が、割振られた担当業務を多少の自己犠牲を払ってでも遂行する気持ちが強いと言うことです。

私も経験上、様々な委員会や協会・協議会等に参加し活動をしてきましたが、今までは本業優先で活動はほんの片手間の感がありましたが、当協会の活動意識は違っていました。

では何故そこまで一生懸命になれるのか・・・私なりに考えてみました。

- ・上下水道コンサルに関わる若手人材育成にかける強い思い
- ・新技術等に関する知識や関連業者からの情報の共有化
- ・発注者からの要求、要望を協会全体として捉え、対応力を一律に向上させる
- ・会員同士の強い連携 (単なる仲良しクラブではない強い意志を持った連携)

これらの思いを各会員が共有すると共に、これらを遂行する委員長の強いリーダーシップと責任感であると感じました。

あらためて歴代の委員長に対し敬意の念を表すると共に、今までの己の不甲斐なさを反省する次第です。

### 4. 最後に

協会の活動は、その他に会員相互の親睦を図る目的でゴルフ・釣り・ボーリング等の大会や「広瀬川 1 万人プロジェクト」への参加で社会貢献も行っております。

私も真に微力ではありますが、これからも協会支部の一員として活動に参加し、支部の振興に貢献できるよう頑張る所存でおります。